

令和8年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

自己と他者を大切にできる豊かな感性を育て、確かな学力と主体的に自己実現・社会貢献できる生徒を育む

- 1 人生を自ら切り拓いていく人間性を育み人権意識を絶えず見つめ直す生徒・教職員の育成
- 2 「認め合い、尊重し、協働していく」学びを社会に活かし、人間性を醸成できる生徒の育成
- 3 「ともに学び、ともに育つ」教育を推進し、多様な学びの場を保障し相互理解できる生徒の育成

2 中期的目標

- 1 確かな学力の定着と学びの深化
 - (1)「確かな学力」の育成と授業改善
 - ア 1人1台端末を活用し、エンパワメントスクールとして、「できた。わかった。やってみたい。もっとできる。」を感じる授業実践
 - (2)グローバル社会を生き抜く力の育成
 - ア 外国語講師（T-NET）や英語学習ツール等の活用、国際交流などの活動を通して、外国語教育と国際理解を深める教育の充実
 - イ 姉妹校事業の活用に向け、海外の文化や歴史に興味関心を持ち、海外交流を希望する生徒を育成する外国語教育の充実
 - (3)一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実
 - ア 専門人材や外部機関と連携し、生徒の教育的ニーズに応じた支援の提供
 - イ 教育庁、教育センター、支援学校と連携し、他校の支援教育体制のサポートも含めた、通級指導教室の充実

【評価指標】

○学校教育自己診断（生徒の肯定的回答）

学校に行くのが楽しい	目標 70.0%以上	（R 5 59.8%、R 6 63.5%、R 7 65.0%）
授業はわかりやすく楽しい	目標 70.0%以上	（R 5 58.8%、R 6 62.6%、R 7 65.0%）
エンパワメントスクールに入学してよかった	目標 70.0%以上を維持	（R 5 67.5%、R 6 68.8%、R 7 73.0%）
生徒が努力したことをほめてくれる	目標 75.0%以上を維持	（R 5 68.3%、R 6 71.3%、R 7 75.0%）

2 豊かな心と健やかな体の育成

- (1)人権・多様性を尊重する教育の推進
 - ア 障がい理解教育や支援学校との相互交流、通級指導教室の活動を核として、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進
 - イ 個別の支援を要する生徒の人権を尊重し、多様性を認め合う生徒の育成に向け校内体制を充実
- (2)中途退学・不登校の未然防止
 - ア 中高連携・人間関係づくり・基礎学力の充実を三本柱として学校運営・教育相談体制を充実
- (3)学びに向かう環境づくりの充実
 - ア 外部人材を積極的に活用し、関係機関や専門家と連携した、生徒を取り巻く多様な環境に応じた支援と学ぶ機会の確保
 - イ 生徒が主体的に学校行事の企画や学校広報活動などに関わる機会を拡充
- (4)健康教育の充実
 - ア 薬物乱用防止教育、がん教育、感染症予防や健康診断受診等、健康教育と健康の保持・増進にかかる取組みを推進

【評価指標】

○学校教育自己診断（生徒の肯定的回答）

学校生活について、先生の指導は納得できる	目標 70.0%以上を維持	（R 5 63.2%、R 6 69.0%、R 7 70.0%）
学校行事（遠足・文化祭・体育祭・修学旅行など）は楽しい	目標 75.0%以上を維持	（R 5 67.2%、R 6 70.3%、R 7 76.0%）
命の大切さや社会のルールについて学んでいる	目標 75.0%以上を維持	（R 5 69.3%、R 6 72.5%、R 7 75.0%）
学校では安心して生活できる	目標 70.0%以上	（R 5 58.9%、R 6 64.1%、R 7 65.0%）
いじめ等について困っていることがあれば、先生は寄り添って対応してくれる	目標 70.0%以上を維持	（R 5 64.6%、R 6 67.6%、R 7 70.0%）
担任以外にも、気軽に相談できる先生がいる	目標 70.0%以上を維持	（R 5 62.3%、R 6 67.2%、R 7 73.0%）

3 将来をみすえた自主性・自立性の育成

- (1)自主性・自立性を育成するキャリア教育の推進
 - ア 希望進路の実現に向け、自己の将来設計や自己実現について考えることができるよう、実践的なキャリア教育を推進
- (2)部活動の取り組み
 - ア 「部活動大阪モデル」の効果的な活用と、ペアリング校以外の学校や地域クラブ等との連携を推進

【評価指標】

○学校教育自己診断（生徒の肯定的回答）	
将来の進路や生活について、考えることがある	目標 75.0%以上（R 5 68.9%、R 6 70.3%、R 7 73.0%）
先生の進路指導はわかりやすい	目標 70.0%以上を維持（R 5 65.6%、R 6 68.2%、R 7 70.0%）
○進路保障	
就職（学校斡旋）希望者の進路実現率	目標 95%以上を維持（R 5 86.9%、R 6 100%、R 7 100%）
進学希望者の進路実現率	目標 95%以上を維持（R 5 98.2%、R 6 100%、R 7 96.3%）
4 力と熱意を備えた教員と学校組織づくり	
（１）働き方改革	
ア 教職員の意識改革と校務の効率化・見直しで長時間勤務の縮減を図りつつ、生徒との時間や授業力向上のための時間を確保	
（２）教職員の資質・能力の向上	
ア 校内外の研修等を活用して、自己の専門性の向上を図るとともに、社会の変化やニーズに対応した資質・能力を向上	
【評価指標】	
○時間外在校等時間	
年間の時間外在校時間等時間が 720 時間を超える教育職員をゼロにする（R 7 0 名）	
年間 360 時間を超える教員を昨年度より減少させる（R 7 年間 360 時間以上 19 名）	
○学校教育自己診断（教員の肯定的回答）	
教員の間で、授業方法などについて検討する機会を積極的にもっている。目標 70%以上（R 5 66.7%、R 6 71.5%、R 7 65.0%）	

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R 7 年度値〕	自己評価
1 確かな学力の定着と学びの深化	（１）「確かな学力」の育成と授業改善	（１）１人１台端末を活用し、「できた。わかった。やってみたい。もっとできる。」を感じる授業実践。	（１）生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい」65.0%〔65.0%〕	
	（２）グローバル社会を生き抜く力の育成	（２）外国語講師（T-NET）や英語学習ツール等の活用、国際交流などの活動を通して、外国語教育と国際理解を深める教育の充実	（２） ・英語学習ツールの活用 ・オンライン国際交流２回〔２回〕 ・海外研修１回〔１回〕	
	（３）一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実	（３） ア 専門人材や外部機関と連携し、生徒の教育的ニーズに応じた支援の提供 イ 昨年度作成したガイドブックを活用し、通級指導教室の指導内容の充実〔新規〕	（３） ア 専門人材等と連携した支援の提供３回〔３回〕 イ 指導書を活用した研修会の開催〔新規〕 他校通級で指導できる人材の増加２名〔新規〕	
	（４）魅力づくりと効果的な情報発信	（４）特色を生かした魅力ある教育活動と、効果的な情報発信の充実	（４）・頑張った生徒奨励の機会を充実 280 人以上〔271 人〕 ・学校ブログでの情報発信 120 回以上〔139 回〕 ・個別対応の学校説明会参加者 5 人〔新規〕	

府立和泉総合高等学校

2 豊かな心と健やかな体の育成	(1) 人権・多様性を尊重する教育の推進 (2) 中途退学・不登校の未然防止 (3) 学びに向かう環境づくりの充実 (4) 健康教育の充実	(1) ア 障がい理解教育や支援学校との相互交流、通級指導教室の活動を核として、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進 イ 支援を要する生徒の人権を尊重した指導等に向け、校内体制を充実 (2) 中高連携・人間関係づくり・基礎学力の充実を三本柱として学校運営・教育相談体制を充実 新入生の情報収集、在校生の情報提供等、中高連携の充実に向けた校内体制の整備 (3) ア 外部人材を積極的に活用し、関係機関や専門家と連携し、生徒を取り巻く多様な環境に応じた支援と学ぶ機会の確保 イ 生徒が主体的に学校行事の企画や学校広報活動などに関わる機会を拡充 (4) 薬物乱用防止教育、がん教育、感染症予防や健康診断受診等、健康教育と健康の保持・増進にかかる取組みを推進	(1) ア 人権HRや講演会の実施2回〔2回〕 イ 定期的な支援会議の開催と生徒の状況に応じた速やかな臨時支援会議の開催10回〔新規〕 (2) 中学校訪問、年3回実施〔新規〕 中途退学・不登校者数の縮減 中途退学者数10%未満〔新規〕 (3) ア 生徒向け学校教育自己診断 ・「学校では安心して生活できる」65.0%〔65.0%〕 ・「いじめ等について困っていることがあれば、先生は寄り添って対応してくれる」70.0%〔70.0%〕 ・「担任以外にも、気軽に相談できる先生がいる」75.0%〔73.0%〕 イ 生徒会活動を中心に、生徒が主体的に学校行事等に参画できる機会5回〔5回〕 (4) 健康教育にかかる講演会の実施1回〔1回〕	
3 将来をみすえた自主性・自立性の育成	(1) 自主性・自立性を育成するキャリア教育の推進 (2) 部活動の取り組み	(1) 希望進路の実現に向け、自己の将来設計や自己実現について考えることができるよう、実践的なキャリア教育を推進 (2) 「部活動大阪モデル」の効果的な活用と、ペアリング以外の学校や地域クラブ等との連携を推進	(1) ・就職（学校斡旋）希望者の進路実現率95%以上〔100%〕 ・進学希望者の進路実現率95%以上〔96.3%〕 (2) 部活動大阪モデルの活用、ペアリング以外の学校や地域クラブとの連携を継続	
4 力と熱意を備えた教員と学校組織づくり	(1) 働き方改革 (2) 教職員の資質・能力の向上	(1) 教職員の意識改革と校務の効率化・見直しで長時間勤務の縮減を図りつつ、生徒との時間や授業力向上のための時間を確保 (2) 教職員の授業力向上に向けた取組み機会の充実。講習会などに参加する機会の確保と情報の提供。	(1) ・全校一斉退庁日の啓発・徹底 ・年間の時間外在校時間等時間が720時間を超える教育職員をゼロにする〔0人〕 ・時間外在校等時間：年360時間以上の人数の減少〔19人/62(30.6%)〕 (2) 教員向け学校教育自己診断 「教員の間で、授業方法などについて検討する機会を積極的にもっている」70.0%〔65.0%〕〔新規〕	